

認知症高齢者の医療選択をサポートするシステムの開発

解決したい課題・研究開発目標

解決したい課題

認知症高齢者に対する医療行為に本人の意思が反映されにくい
 ⇒ 過少もしくは過剰医療につながっている
 ⇒ 一方で、代行決定を求められる家族や後見人に精神的負担がかかっている

目指す社会像

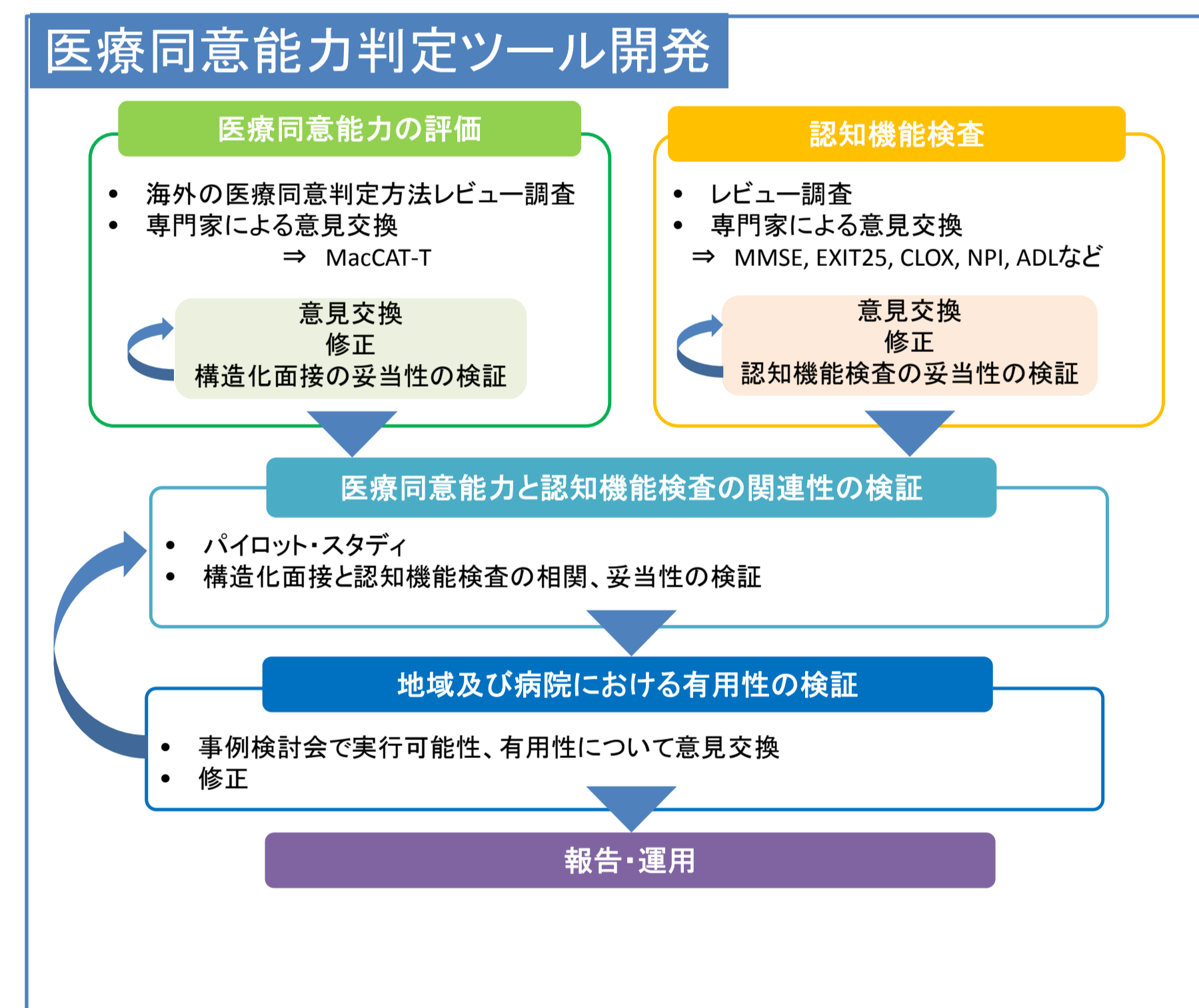
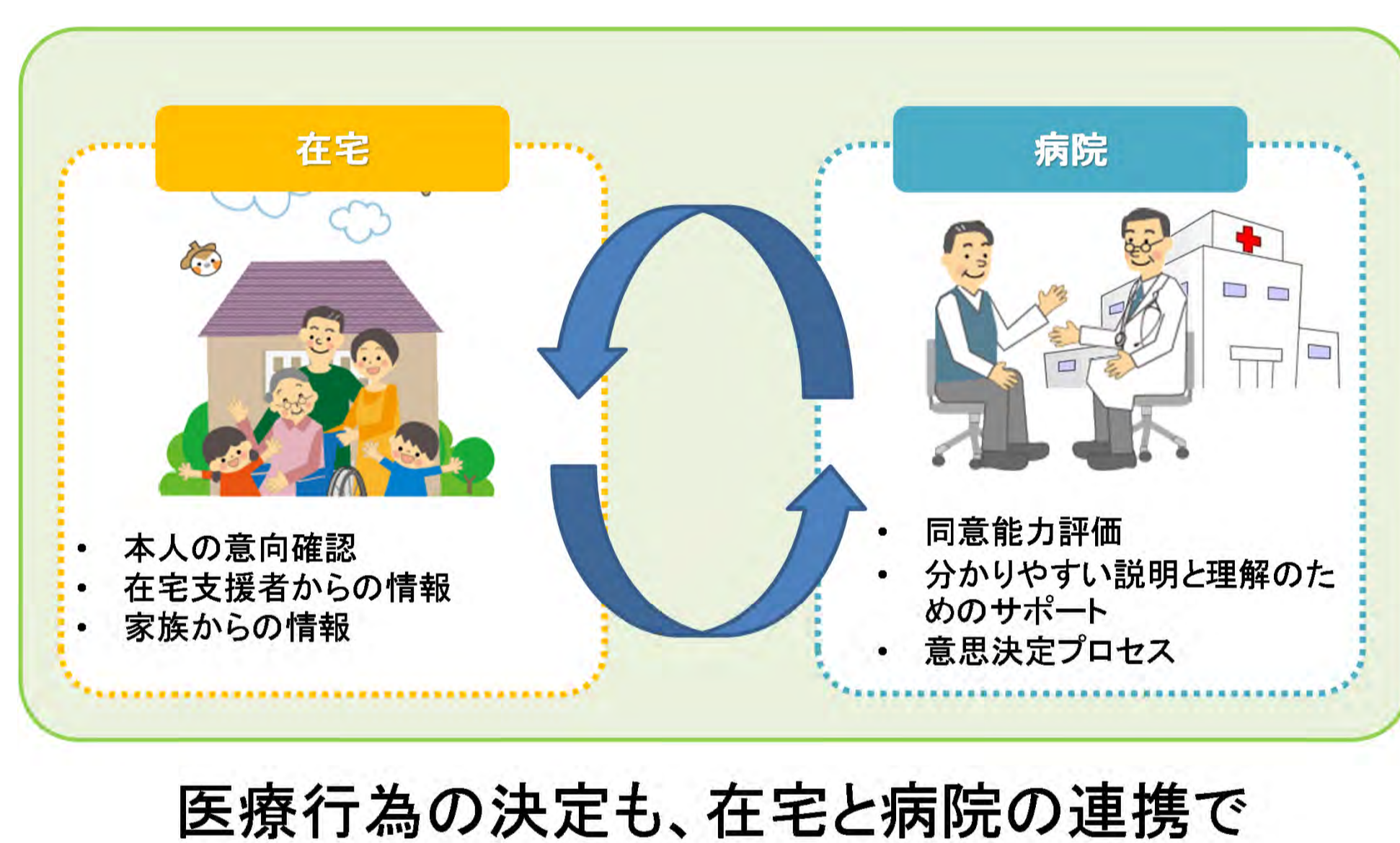
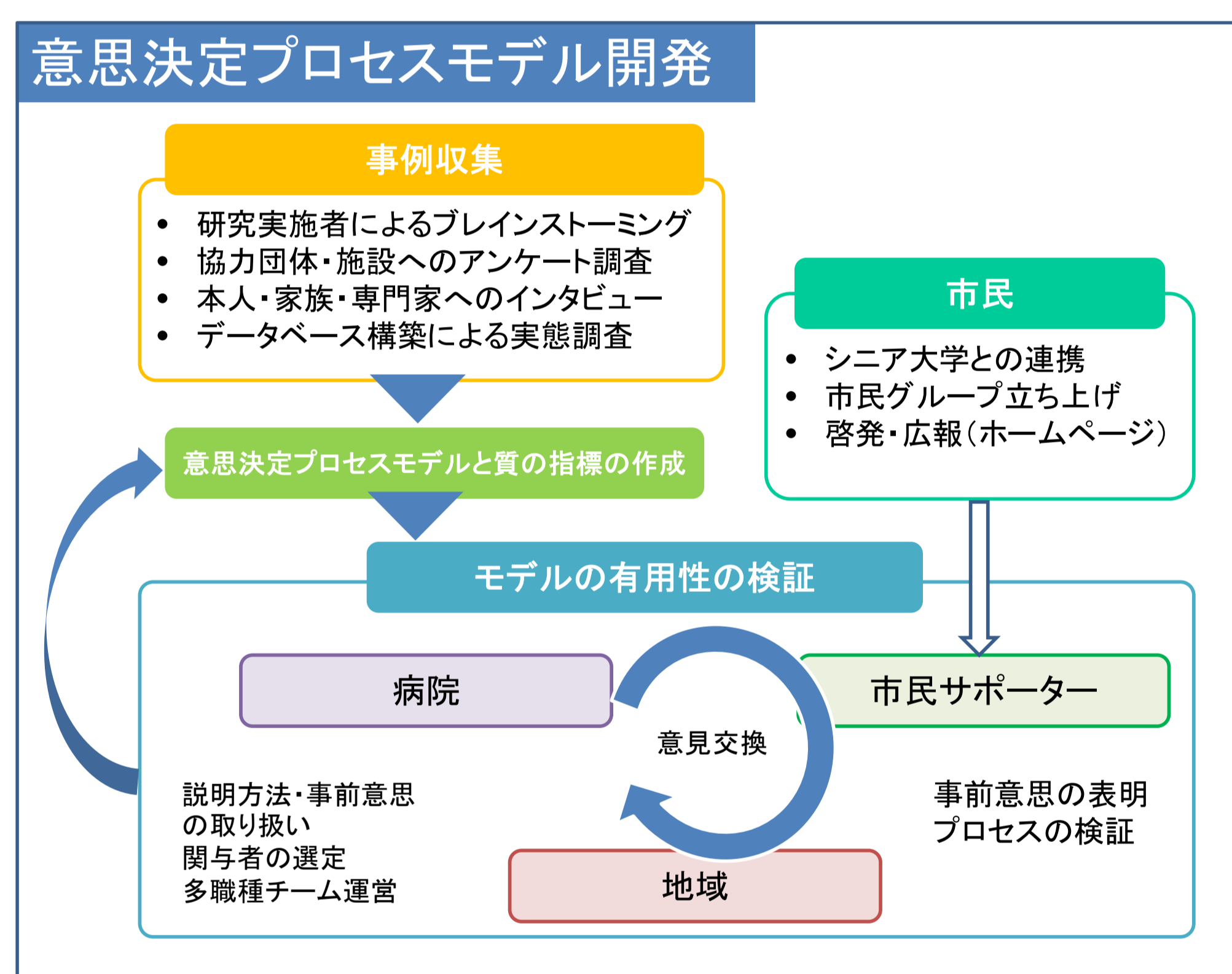
認知症高齢者本人の意思決定を尊重できる「地域包括ケア・多職種連携の中での医療選択のサポートシステム」の構築
 ⇒ 地域と病院をつなぎ、サポートの質を高めるツールを開発

研究開発目標

- ・ 認知症高齢者の同意能力を適切に評価する「医療同意能力評価ツール」
- ・ 同意能力に応じて、本人/家族と多職種による協議で遅延なく医療を受けることができる実践的な「意思決定プロセスモデル」
 ⇒ 専門職向けのマニュアルや、ご本人・ご家族向けのガイドブックにまとめる。
 ⇒ 医療福祉関係者の本人の意思を汲み取るスキルの向上につながる。

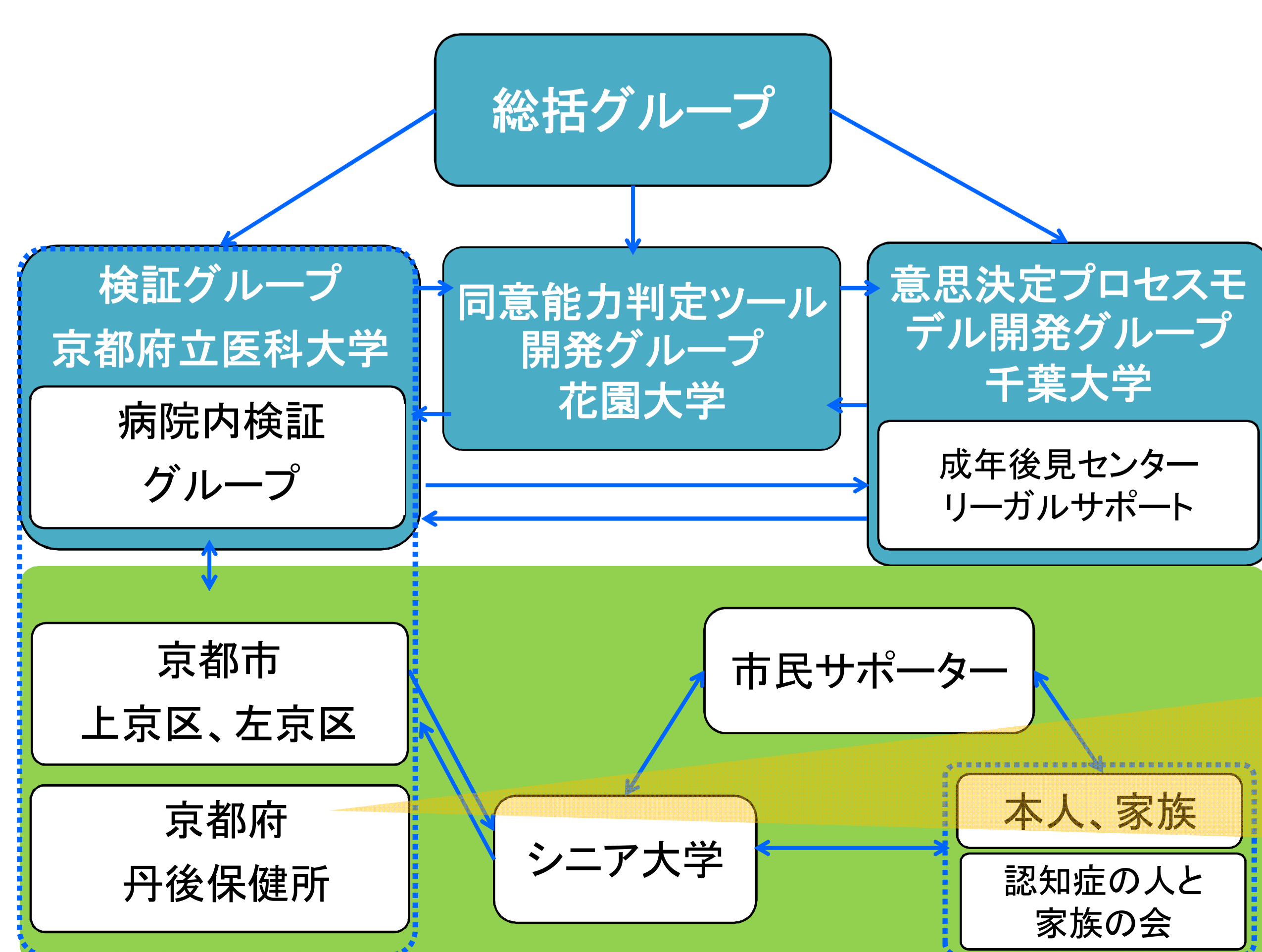
プロジェクトの実施方法

全体計画・プロジェクトの展開方法



対象コミュニティ・研究開発体制

【対象コミュニティ】 京都府京丹後市、京都市上京区、京都市左京区岩倉地域
 【主要な関与者】 京都府立医科大学(医師、看護師、心理士)、千葉大学(法律の専門家)、花園大学(神経心理学の専門家)、京都府丹後保健所、成年後見センターリーガルサポート(司法書士)、認知症の人と家族の会(当事者)、京丹後市立弥栄病院(医療機関)



京都市北部地域

高齢化率 **30%** 以上

京丹後



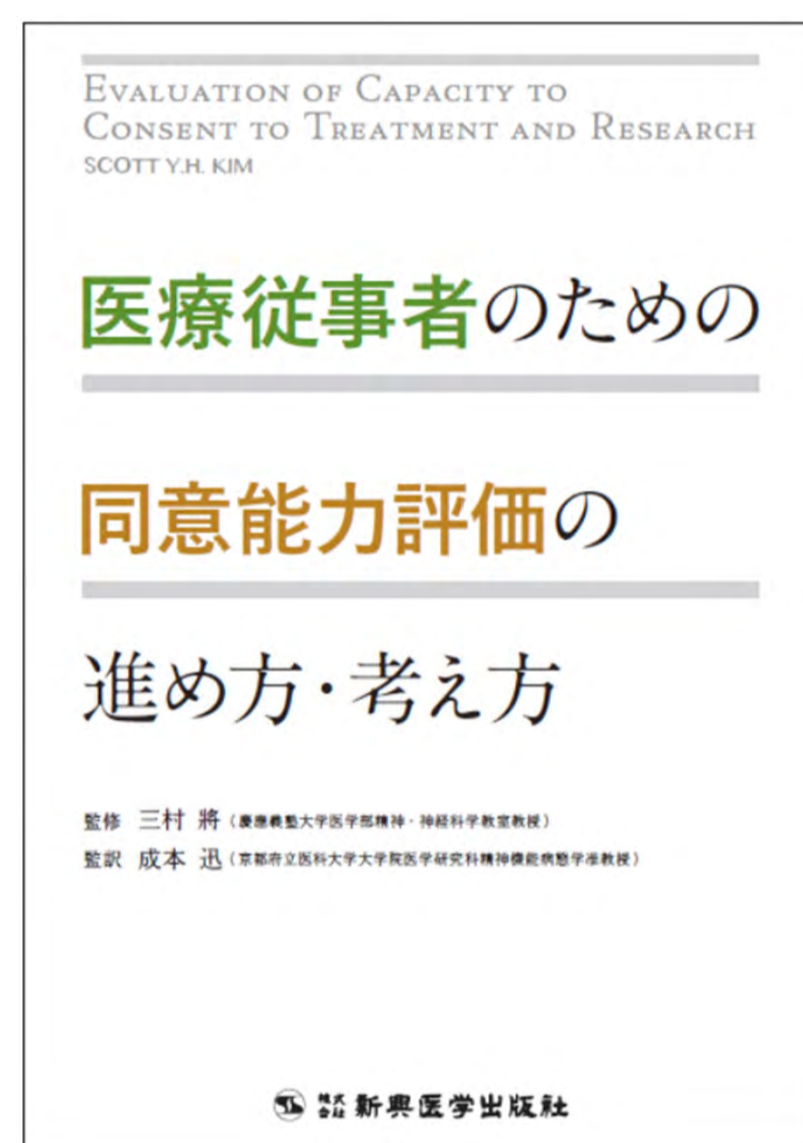
プロジェクトの成果と今後の展望

プロジェクトの成果(開発した社会技術)

1. 医療同意に係る意思決定プロセスの開発
2. 医療同意能力判定ツールの開発
3. 意思決定支援マニュアルの開発

- ◇ 医療におけるインフォームド・コンセントを透明にすることができ、患者の医療、医療過誤の防止等に資することができる。
- ◇ 医療同意能力を簡易な認知機能検査から判定することができ、患者の過剰医療や治療差し控えの防止に資することができる。
- ◇ 地域住民向け、地域支援者向け、医療従事者向けのマニュアルにより、各領域における意思決定支援に資することができる。

プロジェクトメンバーで
翻訳したテキスト



開発したガイド



今後の展開・展望

研修での活用

研修名	対象者
平成26年度認知症サポートナース養成研修(平成27年1月19日)	看護師
平成26年度認知症介護総合研修(平成26年12月19日)	看護師
京都司法書士会(平成26年10月24日)	司法書士
平成26年度京都市市民後見人養成講座(平成26年10月17日)	一般市民
京丹後市介護家族のつどい(平成26年9月2日)	介護家族
乙訓認知症懇話会(平成26年6月28日)	医療福祉関係者

京丹後市での一般市民への普及の取組み

◆理念条例の制定を目指して

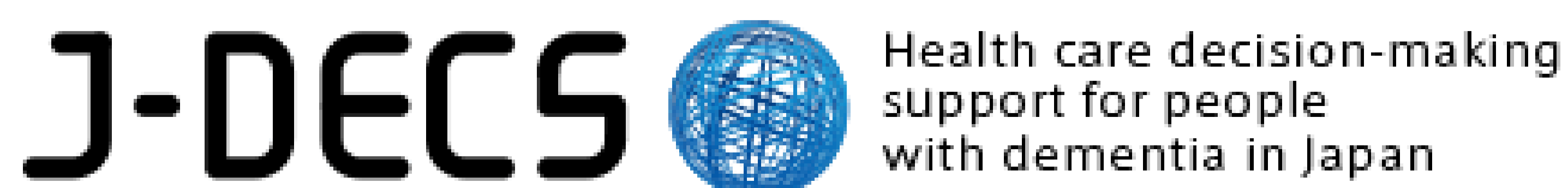
法律家との協働

◆成年後見センター・リーガルサポート「私の決めたい医療～医療行為における本人の意思決定支援～」シンポジウム

◆日本弁護士連合会人権擁護大会での発表

プロジェクトの成果をまとめた書籍

プロジェクトWebサイト・お問い合わせ先



<http://j-decs.org/>

成本 迅(なるもと じん) 連絡先: jnaru@koto.kpu-m.ac.jp